

No	指摘区分	場所区分 (表、図、 例、本文、そ のほか)	段落番号または図表例の番号) ページ番号は書かない。図表で 番号がない場合には表題	指摘場所や文な ど(場所がわか ればよい程度)	指摘内容、コメント、質問。修正の場合には修正前の何を何に 修正すべきかが明確にわかるように記載。体裁、フォント、サ イズの変更などもここに記入。	修正方針
17	内容	本文	1.1. 参照仕様	1行目	FHIR 4.0.xはTrial Use Developmentsを含むとされているので、これが仕様に影響するか否かの記述が必要と思われる。	「本文書の位置づけと適用範囲」に「ベースとしたHL7 FHIR仕様には、HL7 FHIR R4に修正を加えたVer. 4.0.1(Oct-30, 2019)を採用しているが、それ自体がNormative (標準) として確定した仕様となっていないものを多く含んでいる。そのため、元となるHL7 FHIR仕様が変更されることがあるが、本仕様書の明示的な改版時まではその変更の影響を受けないものとする。」の記載を追加した。
18	内容	本文	2.2.1. 報告区分コード	2行目	「本区分コードは、ファイルを作成し報告する「事由区分」の意味で使用する」とあるが、コード体系の名称を「報告事由コード」に変更するほうが分かりやすい。コードの使用目的とコード体系名称を一致させる方が、誤解が少ないと思われる。この変更により、「この場合はコード体系としてOID 「1.2.392.200119.6.1001」が用いられているが本規格ではこれと区別する為に「2.16.840.1.113883.2.2.1.6.1001」を用いる」の文言は、「コード体系としてOID 「2.16.840.1.113883.2.2.1.6.1001」を用いる」と単純化、明確化できる。	反映した。
19	内容	本文	3.1.3. Compositionリソース	identifier : 任意項 目 (0..1)	健康診断結果報告書 ID 体系OID として、施設 OID をルートとする健康診断結果報告書個別ID発行規定 OIDを施設ごとに決め、その規定にそった健康診断結果報告書個別 IDをvalue 要素に記述する方法も考えられる」と記述されているが、最後の部分を「方法で行う。」とする方がよいのでは？	反映した。
20	内容	本文	3.1.3. Compositionリソース	category : 必須項 目 (1..1)	報告区分コードを任意に増設する場合には、増設したコードを含むコード体系を定義し、そのコード体系のコードを指定することにより追加が可能である。」と記述されているが、追加可能としない方がよいのでは？ あるいは、報告区分コード（前記の指摘では報告事由コード）に「その他」をもうけて詳細を別記する方式でのみ追加可能としする方がよいのでは？	この記載自体を削除した。

No	指摘区分	場所区分 (表、図、 例、本文、そ のほか)	段落番号または図表例の番号) ページ番号は書かない。図表で 番号がない場合には表題	指摘場所や文な ど(場所がわか ればよい程度)	指摘内容、コメント、質問。修正の場合には修正前の何を何に 修正すべきかが明確にわかるように記載。体裁、フォント、サ イズの変更などもここに記入。	修正方針
21	内容	本文	3.1.3. Compositionリソース	confident ialityCod e: 必須 項目 (1..1)	「しかるべき権限を持つ通常のアクセスを許可する場合はコー ド「N」を記述すればよい」と記述されているが、 その他のコード (L, M, R, U, V) も短く記載する方が良いので は？	健診結果報告書で、報告書そのものにアクセス制限を記述しても それに対応した取り扱い方法が規定されないので、意味がな い。従って、「バリューセット「V3 Value SetConfidentialityClassification」から、通常のアクセスを許可 するとしてコード「N」を記述する」という記載に修正した。
22	内容	本文	3.1.8. 受診券情報と保険者	4番目の 節	受診券が発行されているか、健診（健診）費用の一部または全 部を本人以外の第三者が負担するケースに限定した（あるい は、限定すべき）内容と思われる。誤解をふせぐため、この 条件を記載した方が良い。「保険証情報」と記されているが、 「費用負担（者）情報」の方が、紛れが少ない。 CoverageはFHIRでは“Financial instrument which may be used to reimburse or pay for health care products and services. Includes both insurance and self-payment”で、本人 による支払いもCoverageに含むので、この場合の扱いを定める べきである（たとえばCoverageに“本人”、Organizationは空 値）。	「受診券情報と保険者情報の両方があるケース、受診券はなく 保険者情報があるケース、共にないケースの3通りがありう る。」を追記した。これらの情報は費用負担者の所在のための 情報ではなく、健診結果を健診データを保険者経由で受診者に 返却する際に、保険者が受診者を特定できるようにするための 情報である。
23	体裁	本文	3.1.10.2. 認証者	1行目	(誤)「FHIR 規格では認証者 (atterster) を記述できる (正)「FHIR 規格では認証者 (attester) を記述できる	完了
24	その他	-	-	-	測定値の正常範囲：測定法や検査室による正常範囲の違いの影 響を考慮するため、測定値には、測定法の指定に加え、健常者 から得られた平均値とSD（正規分布を示さない測定値では分布 の型に応じたパラメータで置き換え）、サンプル数、の情報が 測定値とともに提供されねばならないと思われる。対応可 能ですか？	これはできそうにないと思われる。
44	内容	例	例22 特定健診「FHIR構造パ ターン」記述例	-	(誤)"unit": "mgHg", "code": "mg[Hg]" (正)"unit": "mmHg", "code": "mm[Hg]"	修正済
45	内容	例	例24 安衛法健診結果 記述例	-	(誤)"unit": "mgHg", "code": "mg[Hg]" (正)"unit": "mmHg", "code": "mm[Hg]"	修正済
46	体裁	その他	健康診断結果報告書FHIR記述仕 様（修正履歴一覧）	-	右上の作成日が「2011/11/05」となっています。	修正済